

### (38)長野県飯田市で進められている太陽光発電

太陽光発電を普及するユニークな取組が長野県飯田市で展開されている。環境貢献として設置したいが、預貯金を取り崩したり、ローンを組んでまで太陽光発電に踏み切れないと思っている人々に、「おひさまファンド」という出資金を利用して、地産知消にエネルギーを提供する「おひさま進歩エネルギー」(有限)が設立されたのは 2004 年であった。

NPO の市民事業を理念とする同社は、飯田市と連携し、環境省からの補助金を得て、飯田市内の協力会社から立ち上げ検討プロジェクトでアドバイスを受け、さまざまな事業パートナーから企画支援・専門的ノウハウ等の提供を受けた。出資事業は、2008 年度までに 162 ヶ所、1281kw の太陽光パネルを保育園・公民館などの公的施設等に設置し、21 ヶ所の公共施設や温泉施設等で省エネ(エスコ)事業を行ない、13 ヶ所で太陽熱温水器・ペレットストーブ等のグリーン熱事業を行なった。

ファンドは、1 口 10 万円(出資契約期間 10 年、目標年間利回り 2%)と 50 万円(同 15 年、3.3%)の 2 種類があり、2009 年度までに 7 億 3870 万円が集められた。出資者は第 1 回目のファンドである「南信州おひさまファンド」では、476 名に達したが、出資者は飯田市民だけでなく、全国各地に広がった。また、2009 年度から始まった「おひさまゼロ円システム」では、一般家庭に初期費用ゼロ(設置後 9 年間は、1 月当たり定額 19800 円支払い)で太陽光パネルを設置し、省エネ努力で余剰電力を売電した場合には、利益が得られるようになっている。太陽光発電事業は、飯田市に限らず、南信州全体に広がり、ファンドは公募だけでなく、地域の金融機関も出資するようになった。

人口規模約 10 万人、日照時間が約 2000 時間という中山間地の飯田市は、2007 年に環境文化都市を宣言し、09 年には環境モデル都市の認定を受け、2030 年の温室効果ガス排出量削減目標を 05 年比、家庭部門で 40~50%とし、2050 年には 05 年比、地域全体で 70%削減するという「大胆な」行動計画を推進している。同市では、2010 年、事業者の「おひさま進歩エネルギー」を含めて、太陽光パネル設置 1 件当たり 15 万円(kw 当たり 5 万円)の補助金を 200 件予定したが、希望者が多く、さらに 4500 万円追加した。

また、同市内には、2011 年、中部電力が 1000kw のメガソーラーの運転を開始した。言い出しは、2016 年までに全世帯の 10%、1 万 2~3000kw の太陽光発電を普及する予定で、今後は、創電と節電をパッケージした仕組みの補助金を事業者や農家にも広げることを検討している。

市の積極的な取組と市民共同出資のおひさまシンポが歩調を合わせて、再生可能なエネルギー社会づくりに挑戦していることは、大変興味深い。

以上